21014098
国際学部
平野　巧

留学帰国報告書

私は去年２０１５年の８月から12月までの４ヶ月間､この大学の留学プログラムにより、アメリカ、ミズーリ州に位置するノースウェストミズーリ州立大学に派遣留学をしました。この大学には現地のアメリカ人だけでなく韓国、中国、インド、ネパール、サウジアラビアから多くの学生が私たちと同じように留学しているため、英語を習得し、アメリカの文化を学んだだけでなく、様々な国の人と交流することにより、文化、考え方の違い、英語の発音や訛りの違いを常に感じることができました。

私たちは留学中、寮生活をしていました。私たちが入る寮は 2 種類有り、それぞれ無作為に分けられるという形でした。私たちが大学に到着してすぐに寮の割り振りがされました。大学職員の方が順番に名簿を読み上げていきました。最後の名簿が読み上げられた時、私はまだ呼ばれずにいました。聞いてみると、互の大学間で誤解があったようで、私たちは総勢２１人で行きましたが、ミズーリ州立大学は総勢２０人だと認識していたようです。そのため、ミズーリ州立大学の職員の方が急遽、寮の部屋を手配してくれることになり、その時一人分空いていた部屋に私は割り振られることになりました。自分の部屋に着くと、そこにはおそらく私たちと同じ日に到着したと思しきルームメイトがいました。私のルームメイトはフランス出身で、初めて会って会話したとき、私はルームメイトのフランス訛りのような独特の英語をほぼ全くと言っていいほど聞き取り、理解することができず、ルームメイトもまた私の英語を聞き取れず、お互いにひとつの話題で何度も何度も聞き返した憶えがあります。そのため、最初の一ヶ月間のストレスは初めて体験した時差ボケとも相まって大きなものでした。

ミズーリ州立大学において、私たちが受けた授業の内容は主に TOEIC クラス、英語基礎・文法、スピーキング・リスニング、リーディング、アメリカ文化でした。英語基礎・文法の授業は、自分たちが今まで学んできた文法に加えその応用、そして場面による使い方、使い分けを学ぶことができ、今まで習ってきたテストのための文法をより実践的なものに変えることができました。スピーキング・リスニングでは、アメリカ史を主に記載された教科書を使い、授業のグループワークの中でそれぞれのアメリカ史における話題について討論をしました。この討論の中で違う国の生徒が持つ意見を感じることができました。リーディングの授業では、授業中に出される教科書の宿題に加え、毎週末に決められた新聞記事を読み、要約し、自分の意見をレポートにまとめて出す宿題と、不定期で出される授業内容に関するレポートがありました。そのため、一週間の課題の量は最初、私にはとても多く感じられ、苦労しました。

ノースウェストミズーリ州立大学に留学し、私は多くのものにいい意味でも悪い意味でもショックを受けました。まず大きなものとして挙げると食です。大学で、私たちは基本食事を学食で３食済ませていました。学食はバイキング形式になっており、各々好きな料理を食べることができました。私は専らハンバーガーとピザ、それにフライドポテトを食べていました。私は料理の味と、食の衛生管理に大きくショックを受けました。これは私

21014098
国際学部
平野　巧

が体験したことではありませんが、一緒に留学へ行った友人曰く、一度ハンバーガーのパンの部分にカビが生えており、その上それを提供されたと言っていました。また、サラダのコーナーにある生野菜は農薬の匂いが残っていて、とても毎日食べられるものではありませんでした。次に私は日本の水とアメリカの水のあまりの違いにショックを受けました。私が住んでいた寮にはいくつか給水器が設置されており、寮生は自由に使えました。私は留学先で水の味にですらショックを受けてしまいました。日本の水と違いアメリカの水は鉱物が多く含まれているためとは分かっていたものの、やはりその違いの大きさに驚きました。

大学内ではほぼ毎週末に様々なイベントが催されており、大学の生徒は自由に参加できるというものばかりでした。私たちがいるクラスでは、教師が一週間のイベントの中から１、２個を選び、私たちはそのイベントに必ず出席し、感想をレポートに書かなければいけないというルールがありました。そのため私たちは少なくとも一週間に一回は何かしらのイベントに出席していました。必ず出席しなければならないとは言え、出席したどのイベントも興味深く、楽しいものばかりでした。私がおそらく最初に参加したのはスカベンジャーズハントというイベントでした。このイベントの内容は、5 人ひと組のグループをそれぞれ作り、手紙をもらいます。手紙に書かれているヒントを頼りに次の手紙の場所に行き、手紙を集めていき、早く手紙を全て集められたグループには景品がもらえるというものでした。一見簡単そうに思えるこのイベントですが、手紙が大学のいたるところに隠されている上、大学自体の敷地も恐ろしい程に広大なため、イベント中私たちは景品獲得のためにほぼ休むことなく大学内を走り回りました。特にハロウィーンの時期は、大学内の様々なところでハロウィーンをイメージした部屋や人形、建物を見ることができました。中でも特に印象に残っているものは、学生寮一つをまるごと改装したホウンテッドハウスを探検するというイベントです。イベント内容としては、5 人ひと組でグループを作り、一旦地下に降りた後、エレベーターで五回まで上り、そこから寮のフロアを経由し階段で一階まで降りてくるというものでした。私は入る前、学生が運営する物であるなら、そこまで怖くはないであろうと鷹をくくっていました。しかし、入ってみると内装はとても凝って作られている上に、中にいる亡霊を学生の劇団員が何人か演じていたため、中の雰囲気を不気味なものにしていました。

イベントのほかにも、私たち ESL のクラスは二ヶ月に一回ほどのペースで計２回、フィールドトリップに行きました。一回目はネブラスカ州、二回目はミズーリ州とカンザス州の中間にあるカンザスシティに行きました。一回目のフィールドトリップで、私たちはネブラスカ州にあるオマハという都市にある動物園へ行き、その後オマハにあるショッピングモールへ行き、各自で自由時間の中、買い物が出来るというものでした。留学中、私はいくつかのショッピングモールに訪れましたが、ショッピングモールのフードコートにほぼ絶対と言っていいほど BENTO　TERIYAKI　という看板のお店が入っていました。
私は留学中 2 回ほどこのお店のメニューにある TERIYAKI セットをたべました。内容は白

21014098
国際学部
平野　巧

米か、チャーハンの上に甘しょっぱい照り焼きソースを絡めて焼いたチキンが載っているもので、若干日本の弁当とはずれているものの、美味でした。フィールドトリップ二回目に訪れたカンザスシティで、私たちは最初にネルソンアトキンス美術館を訪れました。広場にある大きなバドミントンのシャトルがとても印象的だったこの美術館は、大きく分けてヨーロッパ、アジア、アメリカ国内の歴史的遺産、美術品や地域の文化を表す物がそれぞれのコーナーに分けて展示されており、私たちは他の国の留学生とお互いの国の展示物の意味や歴史を紹介しながら館内を見て回りました。日本の展示コーナーでは、昔の日本人の生活が描かれた絵や、お面、さらには甲冑も飾ってあり、驚きました。美術館を観光し終えた私たちが次に訪れた場所はカントリークラブプラザという飲食から洋服類まで様々な店が連なっているエリアです。私たちは決められた自由時間の中でこのプラザを歩き回り、買い物を楽しみましたが、それでも物足りない位にプラザのお店や街の雰囲気は私にとって魅力的なものでした。

留学も終盤に差し掛かり、私たちはセンクスギビングというアメリカにおける大きな休日を迎えました。センクスギビング中の５日間、私たちの寮が封鎖されるため、私たちはそれぞれのホストファミリーの家にホームステイし、ホストファミリーの方々とともに休日を過ごしました。私のホストファミリーの夫婦は大学から 2 時間ほど車を運転して向かった先にある農場を経営している方々でした。センクスギビングでは多くの家庭において七面鳥の丸焼きが出され、自家製のソースをかけて食べられます。ほかにも各家庭において様々な種類の家庭料理が振舞われ、一家全員がひとつの家に集まり、団欒をしながら食事を楽しみます。私もホストファミリーの夫婦に連れられ、ホストファミリーの家族と共に食事や会話をさせていただきました。私はその家族の一員ではないため、ホストファミリーの家族の方々に混ざることに対して緊張がありました。しかし、家族の方々は私をとても暖かく迎え入れてくれました。また、ホストファミリーの家族の中に日本に留学をした経験のある人がいたため、私は懐かしい気持ちになりながら日本の様々なことを話しました。

５日間のホームステイも終わり、私は大学における最後のテストに意識が向くと同時に、毎日一緒に行動し、辛い時本当に支え、力になってくれた友人たちとの別れが少しずつ頭をよぎって行きました。そして、テストを終え、単位を無事取得しました。テストの後、帰国するまでに一日の猶予があり、その間に私は友人に別れを告げました。

留学に行き、そこで様々な国の人と関わることによって、私は自分が海外への無意識の偏見を多く持っていたことに気づきました。私は留学先で韓国人と中国人と授業を受けるクラスが同じであるということも働き、一緒に行動することが多く、仲良くなりました。正直なところ留学に行く前は、メディアで報道される政治的な記事やニュースもあり、実際に中国や韓国の人達と関わっていないのにもかかわらず、彼らに対してあまり良い印象を持っていませんでした。しかし関わってみると今まで自分が抱いていたイメージが偏見

21014098
国際学部
平野　巧

であったと分かりました。これはあくまで私のひとつの例であり、この留学を通して私の中で抱き、根拠もなく信じていたイメージや偏見が崩れ、自分で他国の人と関わったことで生まれた経験こそ、私がこのアメリカ留学で得た中で最も価値のあるものであると思います。